



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 188
November
2008

トピックス

メンバー国との防災協力推進

ASEAN地方行政官能力強化プロジェクト

ADRC客員研究員 (ASEAN-GLIDEプロジェクト担当) レポート

アモール・バン
ティゲ・ロザーナ
研究員 (フィリピン)

ピン・ヴィマラー・
コーンターランシー
研究員 (ラオス)

お知らせ

「アジア防災会議
2008」成功裡に終了

第1回斜面防災世界
フォーラム

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.or.jp
http://www.adrc.or.jp

© ADRC 2008

● メンバー国との防災協力推進 ASEAN地方行政官能力強化プロジェクト

アジア防災センター (ADRC) は、日本アセアン統合基金 (JAIF) を活用し、2008年10月、ラオスとカンボジアにてASEAN地方行政官能力強化プロジェクトのキックオフミーティングを実施しました。本事業は、2008年度から実施されるADRCのASEAN・4事業のうちの一つで、ASEAN全加盟国を対象に地方行政官の防災能力向上を目指し、研修を行うもので、本年度はラオス、カンボジア、ベトナムの3カ国で実施されます (ADRCハイライト182号参照)。

10月22日から3日間にわたり、ラオスのビエンチャンにある同国の防災機関、NDMO (国家防災室) 本部にて、NDMOとADRCは、他の関係省庁、NGOの防災担当者を集めキックオフミーティングを行いました。続いて10月27日からは、カンボジア・プノンペンにあるNCDM (国家防災委員会) 本部で、ADRCとNCDMが大勢の防災担当省庁からの出席者を得て、同様の会議を行いました。

それぞれの会議では、ADRCが事業の概要、目的を説明し、次にNDMO、NCDMが自国の災害、防災体制の現状を述べ、防災を担当する地方行政官のニーズを明らかにしました。それを受けNDMO、そしてNCDMはADRCとそれぞれトレーニングのトピックス、方法、教材、研修の開催地域や時期について協議しました。今後、各国の実情を反映させた現地言語での教材が作成され、来年半ばには講師を育成するための研修を実施し、続いてその講師が地方行政官に対する研修を行う予定です。また、今年11月にはベトナムでのキックオフミーティングが予定されており、本年度の事業が本格化します。

今回の会議開催にあたり、ラオスNDMO、カンボジアNCDMの方々には多大な理解と協力をいただきました。特にADRC元客員研究員のNDMOヴィライポン氏およびNCDMクン氏にはADRCとの調整役となっていただきました。重ねてお礼申し上げます。



[ラオスでのキックオフミーティング]



[カンボジアでのキックオフミーティング]

● ADRC客員研究員(ASEAN-GLIDEプロジェクト担当)レポート アモール・バンティエーゲ・ロザーナ研究員 (フィリピン)

フィリピンの市民防災室 (OCD) で働いているアモール・バンティエーゲ・ロザーナと申します。OCDは、国防省 (DND) 内にある防災活動を担う事務所で、国家災害調整委員会 (NDCC) の実務機関として位置づけられています。OCDは、ケゾン市に本室、その他に17の地域センターがあり、300名以上の防災担当のスタッフが配置されています。

NDCCは、フィリピン国において、防災に関する政策立案および調整をつかさどる機関です。そして、自然災害やその他災害に関して、被災地での非常事態宣言の発出に関する提言を行うなど大統領に助言する役割を担っています。NDCCは、国防相が議長、OCD室長が事務局長とし、フィリピン国軍参謀長、フィリピン赤十字長官、フィリピン情報局長官などの14の省庁の長官により構成されています。NDCCのメンバーである省庁が、本システムの下で、防災に関するそれぞれの任務を実施することになっています。

私は、OCDの情報通信技術課長として業務部で働いています。私の担当は、OCDや特にNDCC運営センターのための情報通信技術計画を準備することです。具体的には、NDCCのメンバーである各省庁、地域の災害調整委員会、国際機関、その他関係機関の間で利用・共有できるような、防災分野における情報通信技術の活用が含まれます。

私はJAIFを活用したASEAN-GLIDEプロジェクトの客員研修員として、2008年9月16日から11月30日までADRCに滞在しています。ASEAN-GLIDEプロジェクトは、防災のためにGLIDEシステムを利用して、ウェブ上で過去の災害データベースを構築することを目的にしています。このトレーニングプログラムでは、様々な防災活動を行っている政府および民間企業を訪問したりします。ADRCの能力向上プログラムは、日本の防災システムについて学ぶよい機会を提供してくれています。また、各国の防災システムについての情報や、私の同僚であるタイ、ラオスからの研究員から各国の文化についても学ぶ機会を与えてくれています。ADRCでの経験は思い出深いものになるでしょう。このプログラムで得た知識や技術、そしてASEAN-GLIDEプロジェクトの成果は、フィリピンにおける防災活動をさらに推進してくれることでしょう。



ピン・ヴィマラー・コーンターランシー研究員 (ラオス)

私はピン・ヴィマラー・コーンターランシーと申します。ラオスの労働福祉省にある国家防災室 (NDMO) に勤務しています。私の担当業務は、国内外の災害情報を国内関係機関やADRCのホームページなどから収集することです。

NDMOは、ラオス国内、そして国外で行われている防災活動の調整を図る役割を担っています。具体的な活動としては、各省庁担当部局との連携推進、コミュニティ向けの意識啓発活動の実施、地方での防災活動の推進、防災活動をより効果的にするためのトレーニング、ガイドライン、計画の提供です。



続き

ラオスは、災害が多く発生するアジアに位置し、洪水、干ばつ、火災、暴風、疫病、交通事故、不発弾といった自然災害や人災に直面しています。洪水は、ラオスで最も深刻なハザードで毎年発生し、水田、作物、家畜、漁業や灌漑などのインフラ設備に深刻な被害を与えています。

9月から11月の2ヵ月半、ASEAN-GLIDEプロジェクトの客員研究員として日本に滞在しています。ADRCのスタッフから災害情報管理についての経験を共有したり、GLIDEシステムを学びながら、日本のリスク管理、情報システムについて勉強できればと思っています。

● お知らせ

「アジア防災会議2008」成功裡に終了

2008年11月12日－14日、インドネシア共和国バリ州において、『アジア防災会議2008』が開催されました。この会議は、インドネシア共和国政府、日本国政府（内閣府）、国連国際防災戦略事務局（UN/ISDR）及びADRCが主催し、ADRCメンバー国政府の防災関係者、国連等関係諸機関の職員、防災専門家など約100名が一堂に会しました。

初日の開会式では、インドネシア共和国のカディマン研究・技術担当国務大臣と日本国の並木正芳内閣府大臣政務官が、ACDR2008共同議長としてそれぞれ開会挨拶を行いました。また、会議においては、「兵庫行動枠組2005-2015（HFA）」の具体化を推進するため、各国におけるHFAの取組状況について検討するとともに、防災における官民の連携等についても議論しました。

会議の詳細については、次号のADRCハイライトでお知らせします。

第1回斜面防災世界フォーラム

11月18日より21日まで、東京・青山の国連大学において、第1回斜面防災世界フォーラム (<http://www.iclhq.org/WLFweb/WLF.htm>) が開催されます。このフォーラムでは、国際斜面災害研究計画（IPL）に関する2006年東京行動計画の進捗状況を吟味し、計画を実行に移すための具体策を提言しようとしています。そして、最終目的としては、2005年に兵庫県神戸市で開催された国連防災世界会議で採択された兵庫行動枠組のゴールを達成しようというものです。フォーラムは地すべりに関する基調講演や分科会などがあり、次のセッションについては、無料でどなたでも参加できるものです。

- ケーススタディーと各国の経験：11月19日11時－15時30分、国連大学2階。英語のみ。詳細はhttp://www.unu.edu/events/#wlf_200811
- 公開フォーラム「社会や文化・自然遺産を地すべりから守る」：11月19日14時－17時30分、国連大学3階ウ・タントホール。日英同時通訳あり。
- 展示「世界の地すべりと地すべりリスク軽減」：11月4日－28日（9時30分－17時30分）、国連大学2階展示場。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.or.jp までEメールをお寄せください。